

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

全ての内容において、区の平均正答率を大きく上回り、目標値においては、全ての内容において10ポイント以上上回っている。特に「ひよ

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	学習内容は全体的に定着している。平仮名の読み書きは大半の児童ができていますが、拗音・促音・長音や、「は」「へ」「を」の使い方を誤る児童が数名いる。また、文を書くときに句読点を抜かしてしまう児童が多数いる。また、鉛筆の持ち方や学習用具が整っていない児童もいるため、家庭の協力も必要である。	MIMの問題を繰り返し行い、拗音・促音・長音や「は」「へ」「を」の使い方を定着させていく。週に1度図書室で学習する時間を設けたり、並行読書を行ったりすることで、本を読む楽しさを味わわせるとともに、語彙を増やす機会を設ける。また、文を書くことに慣れていない児童がいるため、教科書の文を視写する時間を増やすことで、文の書き方や言葉のきまり等を身に付けさせる。	家庭における音読の学習を継続して行い、文章の構成や正しい言葉のきまり等を身に付けさせる。また、週末の宿題として日記を書く活動を行う。文を書く力や言葉のきまりを身に付けさせるとともに、自分の思いや考えを表現する力を高めていく。
2年	「文しょうをかく」「書くこと」の正答率が他の項目に比べて低い。「は」「へ」「を」などの助詞の使い方や句読点の打ち方などを理解していない児童がいる。自分の考えを書き表す際の相手意識が希薄で、文字の丁寧さに意識を向けたり、分かりやすく文を書いたりすることに課題をもつ児童が見られる。	ノート指導や作文用紙の使い方は、書画カメラを活用したり、例文を示したりして確認していく。ノートに自分の考えを書く時間を十分確保するとともに、友達同士で交流する時間を多く設ける。自分の考えを書けない児童が考えをもてるような支援を行うことで、自分の考えに自信をつけたり、考えを深めたりできるようにし、どの児童も自分の考えを表現できるようにする。	友達との交流から考えを深めたことについて追記する時間を設けたり、振り返りの時間を設けたりし、自分の思いや考えを書き表す機会を意図的に設定する。また、週末の宿題として、日記や作文を書く活動を年間を通して行っていく。手本となる書き表し方を行っている児童を取り上げる。
3年	領域別に見ると「情報の扱い方に関する事項」については、他の事項と比べて低い正答率となった。文章を書く際に簡単な構成を考えたり語や文の続き方に注意しながら文章を書いたりすることに課題がある。また、経験したことや想像したことをもとに、文章を書くことに対しても課題が見られる。	文章を書く学習では、題材に対してモデルとなる作文を提示し、どんなところが良いのかを児童が具体的に理解できるようにする。実際に書く場面では、常に相手意識・目的意識をもたせる指導をする。また、「事実」と「意見」を区別して書いたり、段落相互の関係に注意したりするためにメモを活用することで視覚的にも分かりやすいようにしていく。	日常的に文章を書く活動を取り入れ、書くことに親しめるようにする。出来上がった文章は複数の友達と読み合い、自分や友達の良いところに気付き、伝え合う活動を取り入れる。友達の作文から分かりやすい文章の書き方に気付かせ、自分の文章に取り入れるように指導し、学級全体で書く力を上げるようにしていく。
4年	説明文に比べ、物語の読み取りが低い正答率である。特に、場面の様子について叙述を基に捉える問題において、正答が少なかった。「書くこと」については、正答率が前年度に比べて高く、自分の考えの理由を書き表すことができるが、指定された分量と2段階構成で文章をかくことの正答が低い。	物語の内容を読み取る学習では、場面の様子を叙述に即して捉えることが課題であるため、場面の様子を表す言葉にサイドラインを引かせ、そこから読み取れることを話し合うことを通して場面の様子を叙述から捉える力を高める。また、文章を書く際には、書く分量や段落について指導をして、自分の考えを文章にまとめる活動をしていく。	月曜朝会後の講話を要約したり、自分の考えを書く活動を継続する中で、書く分量や文章のまとまり等の段落を意識して書けるように指導していく。また、朝読書の時間の確保と学級で本の紹介を進め、意欲的に読書に取り組めるようにしていく。
5年	全体的に、目標値、北区の平均値ともに上回っており、概ね学習内容が定着している。しかし、内容別に見ると、「連用修飾語の理解」についての正答率が低い。「言葉の学習」をする際には、様々な言葉や文に触れさせる指導をすることで語彙や表現の仕方を身に付けさせる必要がある。	漢字の学習については、新出漢字だけでなく、既習の漢字についても復習する時間を設け定着を図る。言葉の学習は、既習事項を生かして文章を書く活動を重点的に取り組み、書いた文章を読み合うことで表現をより豊かにさせる。	読書活動のより一層の充実を図り、「読むこと」だけでなく「書くこと」「言語についての知識理解」の定着度向上につなげていけるようにする。漢字については、他教科でも、既習の漢字は確実に書かせるようにする。
小ト以上上	「わが国の言語文化に関する事項」における領域別正答率が目標値に届かない結果となったことから、古典教材や伝統芸能に関する学習において、国語科の見方や考え方を働かせた授業改善を図る必要があると捉えられる。	「古典」に関する学習では、「柿山伏」の教材を扱う。現代との言語の違いに着目し、古典ならではの言葉のリズムや響きを十分に味わうことができるように、場面の様子を動作を交えながら音読をする活動を取り入れる。それにより、言葉の読み方やリズムの違いとともに、表現される場面の面白さについて十分味わうことができるようにする。	周りの友達と動作を含めた音読を聞き合い、気が付いたことを互いに伝え合う活動を充実させる。それにより、当時の言語を用いてよりよく場面の様子を表す方法についての見方を養うとともに、現代と当時の生活の相違点や共通点を見だし、当時の人々のもの見方や考え方についても十分に理解を深めることができるようにする。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社会）

全ての内容において、区の平均正答率を大きく上回り、目標値においては、全ての内容において10ポイント以上上回っている。特に「ひよ

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	身近な事柄について、今までの生活経験と関連させ、予想を立てながら学習を進める児童が多く、意欲的に取り組める児童が多い。しかし、資料から情報を読み取ったり、活用してまとめたりすることに課題が見受けられる。	児童が身近に感じられる資料を精選することで意欲を高める。また、児童が資料から読み取った内容について全体で確認することにより、正しい知識を身に付けさせる。新聞等にまとめる活動を行う際には、具体的な資料と書き方の関連について説明し、見本を提示することで順序立てて指導していく。	社会科の学習で取り上げる課題が身近な問題であることに気付かせ、学習した内容について深めたり興味の幅を広げたりできるよう、単元に関わる書籍や写真資料などを学級に設定する。学習中に取り上げた場所や物について実際に行った児童の話を取り上げたり、実物を見せたりして、直接関わろうとする意欲をもたせる。
4年	算数でのグラフを読み取る学習を生かし、資料から様々な情報を読み取れる力を身に付けさせることが課題である。そのために、資料や教材の提示方法を工夫する必要がある。	問題に対して、自分が考えたことをより深めるために、交流する時間を十分に確保する。また、毎時間の終わりに自分の学習を振り返る時間を設け、自分の気付きや高まりなどを書く活動を積み重ねていく。また、児童の振り返りを生かして次の学習を組み立て、児童の意欲につなげる。	社会科の学習が自分の生活とつながりがあることに気付かせ、興味関心を高める。また、学習を通して更に疑問に思ったことを自主学習で調べてまとめるよう働きかけ、自ら進んで知識を獲得していく学習スタイルを構築させる。
5年	資料から判断する力を高めていく指導が必要である。資料の読み取り方を丁寧に指導し、情報を正確に取り出す能力を高める指導を行っていく。社会科学習の中で、資料から情報を読み取る活動を積極的に取り入れていく。	児童の身近にある地域教材の資料提示をしていく。資料を読み取る活動では、自分の考えを表現する時間を十分に確保し、なぜそのように考えたのか理由を説明させる場を設け、資料から読み取れる情報を共有することで資料活用の技能を高めていく。	資料を読み取る力が未熟な児童へは個別支援をする。資料を読み取る力と共に社会と結びつけて考える力を付けるために調べ学習を積極的に取り入れていく。児童が興味・関心をもって学び、自分の考えがもてるような学習計画を立てる。
6年	領域別の正答率では、「国土の自然などの様子」では、相対的に正答率が低い結果となった。内容別正答率でも「日本の国土と人々の暮らし」における正答率も低いことから、地形や気候条件等の資料を関連付けた地理的な事象に着目した見方や考え方を働かせるための授業改善が必要であると捉えられる。	歴史分野の学習指導が中心となるが、歴史的人物の功績に関する資料に加え、自然環境に関する資料を有効活用していくことで、当時の様子について自分の考えを広げたり深めたりさせる。それらの資料と関連付けながら歴史的景観に対する理解を深めるだけでなく、歴史上の人物の功績についても自分の考えを明確にもつことができるようにする。	歴史上の人物の功績や考え方について、考えたことを伝え合う活動をより一層充実させる。それにより、歴史的景観を含めた人物の功績等に対する見方を広げ、自分なりに考えたり気付いたりしたことをより深めさせていく。また、調べたことに対する自分なりの考えを学習の振り返りとしてノートに記述させることで、自らの考えの変容についても客観的に捉えられるようにする。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

全ての内容において、区の平均正答率を大きく上回り、目標値においては、全ての内容において10ポイント以上上回っている。特に「ひよ

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	数の概念や10までのたし算・ひき算は、概ね理解ができている。しかし、10の合成・分解の理解が難しい児童や、指を使って計算に時間を要する児童が数名いる。また、文章問題では立式につまずき、答えを導き出せない児童や、答えの単位を書き忘れてしまう児童がいる。	授業の導入で10の合成・分解のフラッシュカードを使ったり、計算カードを使ったゲーム等を取り入れたりし、数学的な活動を充実させる。文章問題では、文章内の数字やキーワードを見つけて印をつけることを習慣化させ、問題文を読み取る力や場面を想像する力を身に付けさせる。また、ブロック操作や図を活用することを通して、たし算とひき算の意味を理解することができるようにする。	家庭と連携し、計算カードやドリルを用いて反復練習を行う。個別指導が必要な児童に対しては、学級経営支援員と連携を図り、具体物等を効果的に使用しながら理解を促していく。また、ひらめきノートに様々な解き方や友達が発見した方法等を書けるようにする。
2年	「たしざん」「ひきざん」の内容項目が、他の項目に比べて正答率が低い。計算の仕方を理解しているが、正確に回答することに課題がある児童が多い。問題解決型学習の授業展開を進めていたことで、基礎的な計算力が十分身に付けていないことが考えられる。	基礎、活用、ともに目標値、区の平均正答率を上回っていることから、引き続き問題解決型の学習を進めることを通して、計算の仕組みを考える力、説明力についての力を伸ばしていくことを基本とする。その上で、単元の後半には、立式する力や正確に計算する力の習熟を図る時間を意図的に設ける。	なぜその式になったのか、なぜその答えになったのかという理由を説明する力を伸ばすことができるよう、友達同士で説明し合う時間を意図的に設定し、児童同士の学び合いを充実させる。学習の途中でも自分の学びを振り返る時間を設け、自己調整できる児童の育成を目指す。
3年	どの内容も目標値を上回っているが、不等号や分数の意味理解が不足している児童が数名いる。また、文章問題では題意を理解できずに立式につまずき、答えを導き出せない児童や、答えの単位を書き忘れてしまう児童がいる。学習に意欲的に取り組んでいるが、基本的な内容を確認してから新しい内容に取り組む必要を感じる。	新しい単元の学習に入る際は既習事項を確認するようにする。これまでの学習をしっかりと思い出して新しい内容に入ることで、既習事項を用いた問題解決につなげられるように指導していく。文章問題は問題文の「分かっていること」や「聞かれていること」に下線を引いたり、書かれている内容を図に表したりする活動を取り入れて題意を理解するように意識して取り組む。	家庭と連携して反復練習を行ったり、個別指導が必要な児童に対しては、学力パワーアップ講師と連携を図り、具体物等を効果的に使用しながら理解を促していく。また、ひらめきノートに様々な解き方や友達が発見した方法等を書けるように指導していく。
4年	どの内容も達成状況が高い。今後も主体的に学習に取り組む態度の涵養を重点的に指導を行う。課題に対して、既習事項や友達の考えを用いて答えを導き出す学習スタイルが確立してきている。友達に自分の考えを伝える(発表する)面で、難しさを感じている児童がいる。	自力解決の時間の確保に加え、その時間に児童同士で考えを見合う場を必要に応じて設定し、友達の考えを自分の考えに生かし、自分の考えをもてるようにする。集団検討の時間においては、友達の考えを自分の言葉で再考したり、説明し直したりする活動を通して、説明する力の向上を図る。また、自分の考えと比べて聞く力や考えのよさに気付く力の向上を図る。	単元の終盤の授業では、単元を通して大切にしたい見方・考え方を再度共有し、補充問題や発展問題に取り組ませる。家庭学習においても、既習事項の課題を計画的に出すことで、その定着度を高めていく。
5年	全体的に既習内容はよく定着している。引き続き、基礎基本の問題に繰り返し取り組み、確実な定着を図る。また、活用力を高めるような発問や問題を学習の中で取り入れる授業を意図的に行っていく。	授業のノートや単元末テストから、児童一人一人のつまづきを把握し、丁寧に指導していく。個人差があるため、少人数指導を生かして個々に合った指導を繰り返す。記述式の問題や応用問題に取り組む時間を確保し、活用力を伸ばしていく。	家庭学習を継続して、計算練習をしていく。授業の最後には、振り返り(学びの手ごたえ)を書き、学んだことを多面的に振り返り、次の指導へつなげられるようにする。個人のレベルに合わせたプリントなども用意し、より多くの問題をこなせるようにする。
6年	4領域の正答率では、特に「数と計算」では全国の平均値を18ポイント以上上回った。しかし、内容項目では「整数のなかま分け」に課題が認められたため、数の仕組みに着目して数学的な考え方を養い、数や計算の仕組み等に関する理解を深めさせていくための授業改善を図る必要があると捉える。	数や計算等の仕組みや性質について、児童が自ら気付いて概念を形成することができるような授業を展開する。基本的にはT-C-C-Cの授業を展開し、児童同士が意見をつないで数概念や性質を見いだしていくことができるように、教師側が学習をコーディネートしていく。また、見いだした性質や概念については、確実に児童と共有できるよう、板書等を工夫する。	校内研究でも活用している「学びの手ごたえボード」を活用し、児童の気付きや発見を構造的に可視化できるようにする。毎時間学びの手ごたえボードを振り返ることで、既習事項に着目しながら数学的な考え方を働かせながら問題を解決することができるようにする。また、「学びの手ごたえ」を毎時間記述させ、自らの学びの変容を客観的に振り返ることができるようにする。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

全ての内容において、区の平均正答率を大きく上回り、目標値においては、全ての内容において10ポイント以上上回っている。特に「ひよこ」

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	身の回りの事象に対して科学的な見方をすることに関心・意欲が高い児童が多い。予想・実験・考察・結論という問題解決型の学習の流れも身に付いてきている。事象に対する問題を見いだすことについては、視点を与えることが必要で、問題を解決するために実験の方法を考える必要感には、個人差がある。	児童に疑問をもたせることができるよう、導入時の課題の提示方法を工夫する。また、見いだした疑問を解決させるために実験方法を話し合う時間を十分に設けることで、実験を行う意義を理解させた上で授業を進めるようにする。	理科で学習したことを日常生活と関連付け、より興味の幅を広げたり学習内容の理解を深めたりする。そのために、学習を進める中の疑問を共有する時間を意図的に設けたり、司書と連携してその単元に応じた書籍を学級に置いたり、自主学習で調べてきた児童のノートを教室掲示したりすることで更なる意欲の向上につなげる。
4年	実験結果から、性質を見付け出す力に課題が見られる。学習する際に課題解決の流れを大事に指導するとともに、学習課題に対して、自分で分かったことを表現する活動を取り入れ、課題に対しての答えが導き出せるようにする。	身近な自然や科学的な事象について「どうして」「なぜ」という関心もてるように問題を投げかけるようにし、予想することの重要性を十分に味わわせる。理解している児童だけで学習を進めず、全ての児童が問題について興味をもてるようにする。	教科書に記載されている実験内容だけではなく、更にどのようなことを調べてみたいのか、日常生活とどのようなつながりがあるのか、児童の意見が出るように働きかけを行う。また、タブレットでの調べ学習を取り入れ、自主学習で調べるためのきっかけをつくる。
5年	「水のすがた」の記述式の問題では、無回答が16.1%いた。理解したことを言葉で表現する力に課題が見られた。また、問題解決型の学習については定着しつつあるが、「考察する」「まとめる」段階における学習指導の工夫が必要であると考えられる。	予想・実験や観察の見通し・結果・考察・結論という学習の流れの中で、「考察」を重点的に指導し、実験の結果から分かることを自分の言葉でまとめさせる時間を十分に確保できるようにしていく。	理科で学習したことを日常生活と関連付けて考えていくようにして、さらに興味や関心を高めていく。授業で学んだことを児童に繰り返し問いかけ、教室掲示を工夫しながら知識や技能を確実に定着させる。
6年	領域別正答率では、「生命・地球」では、全国平均正答率を1.2ポイント下回る結果となった。「生命・地球」領域の定着度を図るために、問題解決型の学習をより一層充実させるための授業改善を図る必要がある。特に、得られた結果から考察をする学習場面において、重点的に授業改善を図る必要があると捉えている。	問題解決型の学習過程の中で、「実験方法を検討する」場面を充実させる。見いだした問題を解決するための条件制御、比較等を行う理由に対する理解を深めることができるよう、丁寧に学習指導を展開する。それにより、得られた結果と実験方法の意図を関連付けながら考察することができるようにし、学習内容の理解度をより深めることができるようにする。	問題解決的な学習過程を通して、自らの学びの変容を振り返ることができるようにする。その際、自分なりに気付いたり発見したりしたことを伝え合う活動の時間を十分に確保し、学習内容についての学級全体の理解度を底上げすることができるようにする。また、見いだした疑問や問題についても積極的に取り上げ、次の学習へスムーズに接続することができるようにする。

「うやグラフ」については正答率が100%と、目標値を約30ポイント近く上回っている。

うやグラフ」については正答率が100%と、目標値を約30ポイント近く上回っている。

「うやグラフ」については正答率が100%と、目標値を約30ポイント近く上回っている。

うやグラフ」については正答率が100%と、目標値を約30ポイント近く上回っている。